

我が校の強み弱み分析・評価シート

<学力調査から>

国語科

○漢字を文の中で正しく使うことができるかをみる問題で85%以上が正答しました。読み中心の漢字学習で多くの凡例に触れている効果と捉えられます。

△目的に応じて文章と図表を結び付けるなどして必要な情報を見つける問題や事実と感想、意見などとの関係を叙述をもとに押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握する問題の正答率が3割程度でした。想像力や思考力を働かせながら、長文を読み進めることに課題があると考えられます。

国語 平均正答率 本校



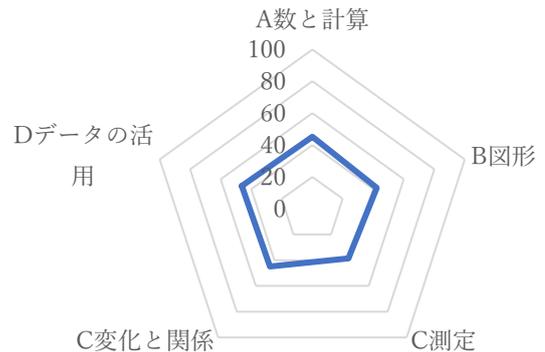
算数科

○簡単な二次元の表から、条件に合った項目を選んだり、伴って変わる二つの数量の関係に着目し、必要な数量を見出したりする問題は比較的できていました。視覚的に捉えやすい問題は、イメージできるので正答率が高いと考えられます。

△割合や分数の概念でつまづきがみられます。

△問題を解決するために必要な数量を求めたり、式や言葉を用いて考えを記述したりする力に課題があります。

算数 平均正答率 本校

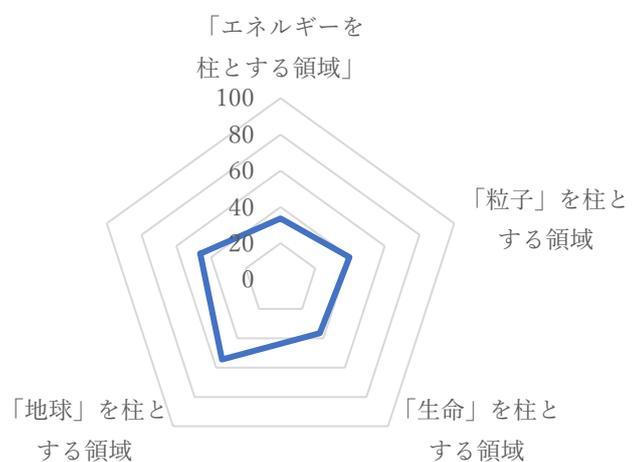


理科

○水のしみ込み方や水の変化などの「地球」を柱とする領域では、他の領域と比べて正答率が高くなっています。生活と結び付いた知識を生かすことができている。

△磁石や乾電池など「エネルギー」を柱とする領域では、正答率が33%と低い結果でした。知識を活用した応用的な問題に向かっていく力や思考力が必要となっています。

理科 平均正答率 本校



<学習状況調査から>

○「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」の項目について、肯定的な回答をした児童の割合が8割で、多様な考えを認める寛容な雰囲気の中で学校生活を送っていることが分かります。

○「自分にはよいところがあると思いますか」「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」「将来の夢や目標を持っていますか」「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか」の項目で、9割以上が肯定的な回答をしており、前向きな気持ちで生活していることが窺えます。

△「休日に、家庭で学習に取り組んでいる時間が1時間より少ない」と回答した児童が7割以上いました。

△「国語の勉強が好き」と肯定的に答えた割合が7割、「算数の勉強が好き」と肯定的に答えた割合が5割、「理科の勉強が好き」と肯定的に答えた割合が8割でした。算数に対して特に苦手意識を持っていることが分かります。

【指導の充実に向けて】

- 一人ひとりの学習状況を丁寧に把握し、基礎基本の定着、学習の積み上げを大事にしていきます。また、家庭との連携を図り一人ひとりに合った支援を行い、子どもたちが意欲的に学びに向かえるような肯定的な声かけをしていきます。
- 一度習ったことでも時間が経つと忘れてしまうため、授業や家庭学習で復習する機会を意図的に作ります。
- 毎日の授業では、「めあて」と「振り返り」を大切にし、子ども自身がこの時間に何を学ぶのか、学んだのかが表現できるように意識して授業を行います。
- 複数の条件を踏まえて書くことや内容の読み取りに課題が見られたことから、各教科において、自分の考えが伝わるように複数の資料を活用して書いたり、話したりする場を設定します。また、市立図書館とも連携し、さまざまな本に触れられるようにして読書活動の充実を図ります。
- 文章と図を結び付ける、書かれていることを図で表現するなど、書かれていることがイメージしやすくなるよう、内容を整理したり自分の言葉で説明したりする場面を増やします。
- 学習した内容、身に付けた知識を活用できる学習場面を設定したり、日常の具体的な場面に対応させながら考える課題を設定したりして、より深い学びとなるよう努めていきます。
- 引き続き、学校全体で子どもたちの様子を見守り、子どもたちが安心感を持って学校生活を送ることができるよう、相談しやすい環境作りに努めます。

